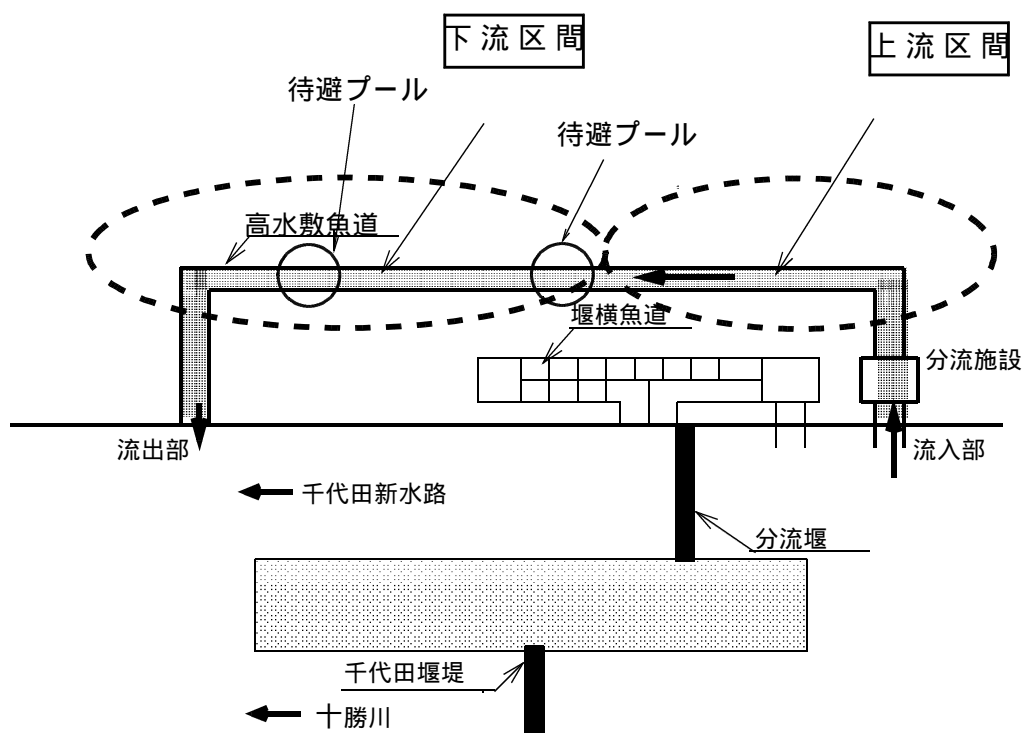
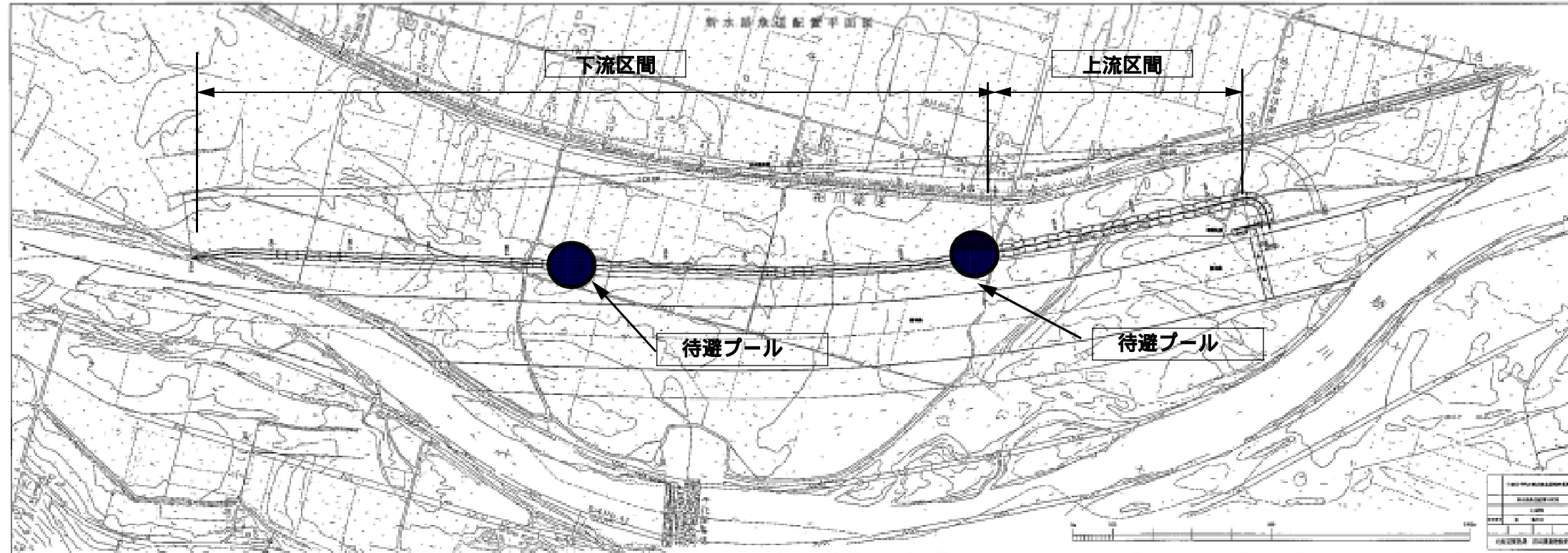


5 . 高水敷魚道の基本諸元



平面計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 蛇行を有する平面形とし、洪水時、冬季及び鳥類による捕食からの待避プールを下流区間に2箇所程度設置する。 ・ なお、蛇行の形状は、十勝川における蛇行波長を研究及び調査した資料を参考に十勝川にふさわしい形状を設定した。 ・ 水衝部の浸食箇所は、運用後、適宜、礫などを配置してその拡大を防止する。 ・ 流出部は、本川合流後で経年的に滲筋が安定して右岸側に淵が形成されている地点が望ましい。
縦断計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下流区間の勾配は 1/330 程度を基本とするが、上流区間は周辺高水敷における空間利用及び環境学習等に配慮し、切深を押しさえるために 1/1,000 程度の緩勾配とする。 ・ 適宜、礫などを横断的に配置し、瀬・淵、緩流部の形成を図る。
横断計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下流区間の法面勾配は 1 : 2 程度とする。 ・ 上流区間は利用面でのアクセス性を配慮し法面勾配 1 : 5 程度とする。また、安全性に配慮し、水深は 40cm 程度を限度とする。 ・ 鳥類等からの捕食、水温上昇の防止、日陰の形成を図るために低木、草本、水生植生の生育を期待する。 ・ 千代田地区周辺では、十勝エコロジパーク計画に基づき、公園整備が計画されており、高水敷魚道の整備に当たっては、それら公園整備計画と整合をはかりながら環境学習の場等としての利用にも配慮する。



イメージ横断面図

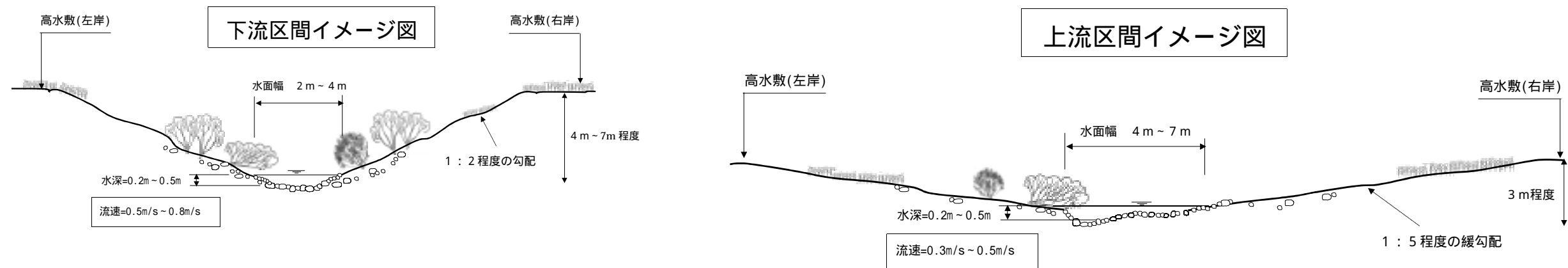
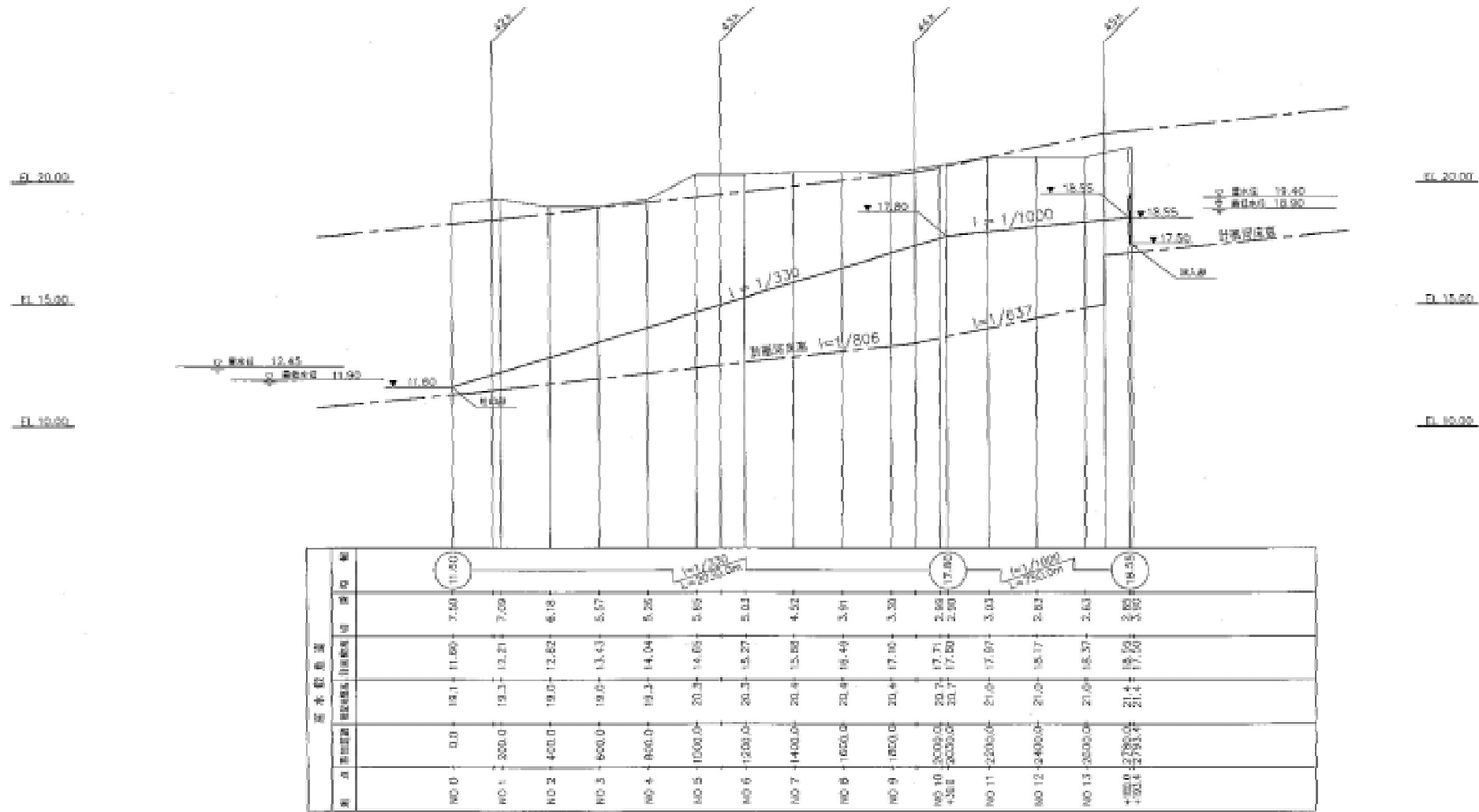


図5 - 1 高水敷魚道イメージ図

高水魚道縱斷圖

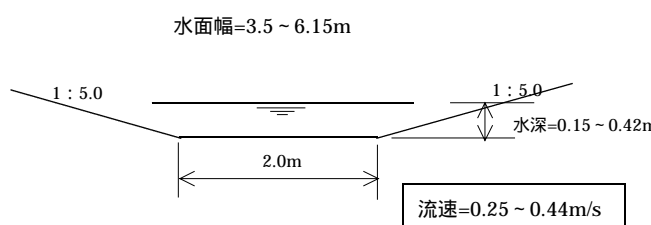
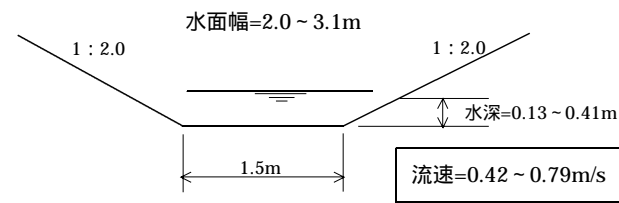
Y=1:100
H=1:1000



图名	十级川字代田式水渠鱼道纵断面图
比例	1:100 1:1000
设计	设计
校核	校核
审核	审核
设计单位	龙海道河务局 唐山南院设计部

图 5 - 2 高水敷魚道縱断圖

表 5 - 1 高水敷魚道諸元及び構成一覧表

項 目		高 水 敷 魚 道	
諸 元 一 覧	構 造	素堀り	
	延 長	約 2,800m	
	勾 配	・ 1/1,000 (上流区間 : 約 800 m) ・ 1/330 (下流区間 : 約 2,000 m)	
	断面形状	・ 上流区間 : 台形断面(幅 2.0 m、法勾配 1 : 5.0) ・ 下流区間 : 台形断面(幅 1.5 m、法勾配 1 : 2.0)	
	流 量	0.10m ³ /s(最小流量)、0.45m ³ /s(平水流量)、0.75m ³ /s(豊水流量)	
	水 深	・ 上流区間 : 0.15m(最小流量)、0.32m(平水流量)、0.42m(豊水流量) ・ 下流区間 : 0.13m(最小流量)、0.31m(平水流量)、0.41m(豊水流量)	
	流 速	・ 上流区間 : 0.25m/s(最小流量)、0.38m/s(平水流量)、0.44m/s(豊水流量) ・ 下流区間 : 0.42m/s(最小流量)、0.68m/s(平水流量)、0.79m/s(豊水流量)	
魚 道 構 成	流 入 部	・ 対象水位は EL.18.9(最低水位) ~ 19.4 m(豊水位)。 ・ 流入水路は、分流堰の湛水池から流水を分流施設へ導くコンクリート水路とする。幅は 2.0 m。	
	分流施設	流入	・ 流入水路により導いた流水を堰横魚道と呼水水路に分流する施設である。 ・ 堰上流水位に関わらず分流量をなるべく一定量にするため、オリフィス式とする。
	流出	・ 分流施設の一部を切欠いた越流堰方式する。 ・ 越流頂標高と魚道水路との間に若干の段差を設けて越流状態を確保する。	
一 般 部	<p>上流区間</p>  <p>下流区間</p> 		
流 出 部	千代田新水路と本川の合流点 41k800 地点とする。		

高水敷魚道の対象魚である小型遊泳魚、特にイトヨは、他の魚類に比べて遊泳力が小さいことから、以下に示すように、「水際部への玉石配置や植生生育促進」など、魚道内に流れの緩やかな場所が形成されるように配慮する。

水際への玉石配置や植生生育促進

